

日本IT書紀

186 ボートピープル

10 迅風篇
卷之二十五 懊惱

佃 均



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。

第百八十六

ボートピープル

一

一九七五年の四月三十日正午、南ベトナムの首都サイゴンの独立宮殿に北ベトナム正規軍の戦車隊が突入した。南ベトナム政府のズオン・バン・ミン大統領は無条件降伏をし、ここに長かったベトナム戦争は終結を見た。七三年一月、パリで「ベトナム和平協定」が調印されて二年三か月後のことだった。

物量や兵器の性能において圧倒的に劣勢だった北ベトナムを、最後まで一枚岩で統率したのはホー・チ・ミンという人物である。思想家であり政治家であり、かつ北ベトナムの象徴でもあったこの人物は、しかし歴史的な勝利を見ることができなかった。六九年九月に逝去していたのである。

本名はグエン・シン・ツォンという。

一八九〇年五月十九日生まれというが、誕生日には異説がある。地方官吏の父が上級官吏の試験を受けるべくベト

ナム王朝の古都フエに移り住んだとき、フランス・インドシナ総督府が設けたベトナム人官吏養成学校「クオックホック（国家学堂）」に入った。フアンティエットで小学校の教師をしたのち、サイゴンで技術者養成校に入学した。二十一歳のときシャルジュール・レユニ運輸会社のコック見習いとなり、フランスに渡った。以後三十年間、海外での流転が始まる。

まず彼は船員となって、アフリカやアメリカに行った。のちパリで共産主義に接近し、三十一歳でフランス植民地民族連盟の創立に参加した。

二三年、モスクワで開かれた農民代表インターナショナルで執行役員、二四年のコミンテルン第五回大会で東方部常任委員、二六年ソ連のボロディン軍事顧問団の一員として中国に行き、広東で「ベトナム青年革命同志会」「共産主義同盟」を設立した。

二八年コミンテルンより党創立の権限が与えられ、香港に「ベトナム共産党」を創設した。

その後、党の方針をめぐってやや内紛めいたことがあった。この時期、彼はモスクワで結核との闘病生活を送るかわら、レーニン国際大学で革命理論・被抑圧解放運動の研究に没頭した。一九三八年に再び中国に入り、中国共産党・葉剣英麾下の国民党支援軍に随行しつつ南下し、四一

年二月、ついに中越国境を越えることができた。

第二次大戦下のベトナムでは、日本軍にとってもフランス・インドシナ方面軍にとってもグエン・シン・ツォンという男は危険分子だった。

彼は北部バクボの洞窟に潜みつつ独立闘争路線を示して「ベトナム独立同盟（ドゥッククラブ・ドンミンIIベトミン）を結成した。ホー・チ・ミン、漢字で表記すると「胡志明」（志明らかなる異邦人）を名乗ったのはこのときである。

中国南部にベトミン後方拠点を設置する仕事を進めていたとき、共産主義の拡大に警戒を強めていた中国国民党に拘束され、四三年九月に釈放されたとき、自分の足で立てないほどに体力が衰えていた。

ややあつて再びベトナムに戻り、四五年八月、日本が無条件降伏した好機をとらえて全国的な蜂起を発動して「八月革命」を成功させた。

このとき日本に旧王室の保大（バオダイ）帝を首班とする亡命政権があったため、最初の民族分裂の危機に迫られたが、天運は彼に味方した。連合軍諸国は戦後処理に忙殺され、インドシナが真空状態となったのである。九月にいたって「ベトナム民主共和国臨時政府」を樹立し、ここに初の統一独立国家が誕生した。

二

最大の不思議は、なぜアメリカが負けたのか、ということである。

最大十トンの爆弾を投下できる超々大型爆撃機「B-52」、最新鋭のジェット戦闘機、ロケット砲、火炎放射砲を備えた装甲車輛、連装機銃など近代装備を備え、ピーク時には五十万人を超える兵力を投入して、なぜ勝てなかったのか。

——ベトコンのゲリラ戦法に攪乱された。
という指摘がある。

なるほど、ベトコンは民衆に紛れて爆弾を仕掛け、アメリカ兵や政府中枢の要人を殺し、テト（旧正月）に一斉蜂起して南側の足下をすくった。アメリカ軍が朝鮮戦争で恐れていたことが、ベトナムでは実際に起こった。

だがそれは、決定的な敗因ではない。
——ラオス、カンボジアの山岳地帯を貫く北側の補給路を断てなかつたのが敗因である。

とする考え方もある。

いわゆる「ホー・チ・ミン・ルート」を延べ何十万もの人々が往復し、手と足で中国から物資を運んだ。アメリカ

は国際法に則って、越境して歩兵部隊を送ることができなかった。それも一理あるには違いない。

だが最大の敗因は、北ベトナムに侵攻しなかったことだ。北緯十七度線を越えて機甲師団と歩兵部隊を送り込み、ハノイを占領し、その他の都市を制圧すれば、戦争はもっと早く終わった——かもしれない。

アメリカ軍は超々大型爆撃機で、北緯十七度線以北に大量の爆弾を落とした。それは太平洋戦争における日本本土の空襲に倣った作戦だったが、爆弾が炸裂したのは工業地帯や家が密集した都市ではなかった。赤土の荒野か広葉樹林が茂る密林だった。

もつといえ、アメリカはランチェスターの法則を忘れた。法則の原理を忘れた、と言うべきであろう。そもそもこの法則は、敵と味方が同じような武器と兵力で戦うことを前提として研究され、そこに計数化された作戦が適用された。

第二次大戦は工業国と工業国の戦いだった。工業生産力と技術力が優劣を決定し、精神力と物量力が戦闘の勝敗を左右した。ベトナムではこのすべてが通用しなかった。旧日本帝国陸軍が残っていた元込めの単発銃が、ICを搭載した最新鋭のジェット戦闘機を撃ち落したのだ。

もう一つの敗因は、最初からアメリカは及び腰だった。

北緯十七度線を越えてハノイを占領すればいいことは分かっていたし、それは容易なことだった。にもかかわらず実行しなかったのは、ソ連と中国が戦いの前面に出てくることだった。

であれば、アメリカはベトナムで戦うべきではなかった。

アメリカは延べ二百六十万人の兵士をベトナムに送り込み、五万八千人が戦死、七十五万二千人が負傷した。南ベトナム側の兵力はピーク時百十八万人に達し、約十七万人が死亡した。対して北ベトナム側は正規軍と南ベトナム解放民族戦線（ベトコン）は計九十七万七千人が戦死し、百三十万人が負傷したといわれる。

このころ日本では新左翼諸派が活力を失い、ベトナム反戦運動も下火になっていた。このためにサイゴンの陥落は、遠い外国の軍事クーデター程度にしか報道されなかった。主要なマスメディアのうち、最後まで特派員を置いていたのは毎日新聞だけだった。

同紙特派員としてサイゴンの陥落を見届けた古森義久は、その直後の様子を次のように報道した。

サイゴンに軍政を布いた軍事管理委員会が「米植民地主義や傀儡政権の低俗な書物を禁止する」布令を出したのを

きつかけに、焚書が始まったが、エロ本だけではなく、欧米の文学や一般教養書までが燃やされた。「解放学生青年連盟」と名乗る青少年が本屋や民家を一軒一軒回り、「革命的不良図書」を片端から没収した。さすがにこれは民衆から激しい反発を買ったので、軍事管理委員会も行き過ぎを戒める布告を出し、外国の本でも医学や自然科学の本は除外し、また民家に立ち入って没収するのは禁止された。人民裁判や公開処刑も始まった。初めは刑事犯が対象だったが、間もなく旧政権下の「反人民的行動」まで処刑の対象になった。通常の訴訟手続きは行われず、当局が動員した民衆のなかから有罪の声が上がれば処刑するというやりかたである。

臨時革命政府は南側旧政府の要人や国家公務員、旧軍の将校などを次々に捕らえていった。逮捕されたのは三十万人を下らないとされている。一般市民であつても共産主義に服従しないと判断された人々は「新経済区」への移住を強制された。そこは未開拓の荒野やジャングル、あるいは南政府軍が仕掛けた地雷原だった。

新政府は開拓者たちに家を建て、最初の三カ月は食糧を支給すると約束していたが、現地の役人たちが横領するものが少なくなかった。このために餓死や自殺が相次いだ。

アメリカ軍に従軍したフリー・ジャーナリストの徳岡孝夫は次のように書いた。

七五年四月のサイゴン陥落の直前、直後に国外に脱出した「南」ヴェトナム人は総計一三万人を越したが、これは旧サイゴン政権の関係者や政府軍の高級将校、資本家とその家族が大半であり、革命につきものの亡命者とみなすことができない。しかしその後も脱出者は切れ目なく続き、七年、七七年と増え続けた。

この年（七八年）、外国に到着したヴェトナム難民は八万五千人以上に達した。その遭難率は五〇%近いと推定されるので脱出者の実数は七八年だけで恐らく二十万人近くに達しただろう。

サイゴン陥落時の難民が、米軍機や米艦艇で運ばれたのに対し、その後の難民は、陸続きの国が社会主義国で、陸路の脱出が不可能なため、航洋性のない河川用の船や小さなボロ漁船で海上に乗り出し、運を天に任せて近隣のマレーシアやタイの沿岸にたどり着くか、公海上で他国の船に拾われるかを当てにした決死的脱出であつた。しかもシャム湾に跳梁する海賊に襲われれば殺されないまでも、身ぐるみ剥がされ、女性は子どもに至るまで集団暴行される。船はエンジンを壊され、燃料油も強奪されるから漂流せざる

るをえない。

彼らは「ボート・ピープル」と呼ばれ、海流に乗ってしばしば日本の沖縄や五島列島、時に神奈川沖に漂着した。日本政府は亡命を受け入れないという国是をもって彼らを犯罪者同然に扱い、一部をアメリカに送り届け、多くをベトナム本国に送還した。

三

これよりずっと時代が下った二〇〇一年の四月一日、ホーチミン市の病院で、六十二歳になった大酒食らいのチェインズモーカーが亡くなった。その男の名は、チン・コン・ソンという。

彼は一九三九年、ベトナムのダクラク省バンメトートで生まれ、十歳でサイゴンに移った。五八年サイゴン大学在学中に自作自演の音楽活動を始め、南ベトナムで反戦歌手として名前が知られるようになった。

六七年からハノイ生まれの女性歌手カイン・リーと組んで反戦活動の先頭に立ち、七二年に政府からすべての活動が禁じられた。

七五年の初夏、彼はカイン・リーとともにボート・ピープ

ルの一員として密出国し、命からがらアメリカに渡った。しかしアメリカでは「再教育キャンプ」に送られ、そこでも音楽活動が禁じられた。アメリカ国内で「ベトナム」を語ることはタブーだった。

活動を再開したのは八〇年に入っていた。何本かの映画音楽を担当するうち、ベトナム共産党が経済開放策に転じ、彼の音楽を解禁した。八九年、かつて一緒に活動したカイン・リーとパリで再会することができた。

日本では六二年二月に大阪の毎日放送テレビが「お眠り坊や」を紹介し、七八年にNHKが近藤絃一のドキュメンタリーをもとに制作したドラマ『サイゴンから来た妻と娘』の主題歌として、彼が作った「美しい昔」が流された。

ややあって、演歌歌手の天童よしみが「美しい昔」をNHKの特番で熱唱して話題を集めた。天童はデビューから長い間、ヒット曲に恵まれなかった。ベトナムを旅行したとき、街角に流れているこの曲に惹きつけられ、以来、コンサートで必ず歌うことを続けていた。それがベトナムで知られ、ホーチミン市でコンサートを開いたこともあった。

——チン・コン・ソン自身は、歌はあまり上手くなかった。だが、カイン・リーと言う表現者を得たことで、特に創作の面で自在に才能を発揮しすることができた。

と評される。

彼が死するや海外で活躍していたベトナム人歌手の多くが帰国し、党委員長なども弔問に訪れた。沿道には一万人もの民衆が出て、その棺を見送った。

「お眠り坊や」は、「美しい昔」とともに彼の代表作とされる。日本でのタイトルは「坊や大きくならないで」というのである。日本人の耳には、森山良子の歌声とともに記憶されている。

四

戦争は勝者にも敗者にも、戦後の痛みを残す。

途中で「和平」を口実に戦線から離脱し、敗戦の原因を作ったアメリカは、戦争犯罪を問われなかった。北ベトナムがソ連や中国のように大国であったら、ベトナム戦争拡大の張本人としてジョンソン、ニクソンの歴代大統領は、東条英機と同じ判決を受けてもおかしくなかった。

公的な裁きは受けなかったが、アメリカはその後、一九八〇年代末まで「ベトナム・シンドローム」という悪魔にうなされなければならなかった。このために責任の追及は行われず、要するに「何もなかった」ことにしようと、社会全体が考えた。

七〇年代の後半、フォードもカーターもレーガンも、こ

のことに触れないように努めていた。ベトナム帰還兵とその家族と、ベトナムの人々が救われなまま残された。

だがそれは、所詮無理な話だった。初めて傷を癒してくれる指導者や映画を求め、八〇年代のレーガン政権の登場やスタローン主演の「ランボー」などは

——決して忘れることができない戦争。

として、ベトナム戦争を表現したともいえるであろう。

そしてベトナム戦争世代にベビー・ブーマー達がある程度余裕ある生活をする八〇年代半ば（ベトナム戦争終結十周年の頃）から、この戦争をよりリアルに見つめ直そうとする傾向がはつきりするようになった。

ボブ・ディラン「風に吹かれて」

ジョン・バエズ「勝利をわれらに」「ドナ・ドナ」

ピーター・ポール＆マリィ「花はどこへいった」

ママス＆パパス「夢のカリフォルニア」「花のサンフラ
ンシスコ」

ブルース・スプリングステイーン「合衆国に生れて」

ジョン・レノン「ハッピー・クリスマス」「イマジン」

カーティス・メイフィールド「バック・ツィ・ザ・ウォール
ド」

ステイビー・ワンダー「ミュージック・エイリアム」

ビリー・ジョエル「ザ・ナイロン・カーテン」

ジミー・ヘンドリックス「ジプシーのバンド」

サイモン&ガーファンクル「スカボロフェア」「7時の

ニュース/きよしこの夜」

マービン・ゲイ「ホワッツ・ゴイング・オン」

エル・チカーノ「ビバ ティラド」

ジミー・クリフ「メニー・リバー・ツー・クロス」

……

これらの歌はベトナム戦争時あるいはその終結後、アメリカ国内で、ないし全世界で反戦歌として歌われた。

ジョン・バエズが歌い上げた「勝利をわれらに」は、もともとアメリカにおける黒人解放運動の歌だったし、ピーター・ポール&マリー（PPM）の「花はどこへいった」はマレーネ・デートリツヒがすでに第二次大戦前に歌っていた。

ブルース・スプリングステインの「合衆国に生れて」は、次のように歌う。

地元でちよつとしたトラブルに巻き込まれ

軍隊に入隊させられ

黄色い人間を殺すために外地へ送られた

故郷に帰って精油所へ行くと

人事係に「一存で雇えるならいいんだが」と言われ

復員軍人庁の役人に会いに行ったら

「もう現状が分かったらう」と言われた

ケソンでベトコンと戦った同胞がいたよ

ベトコンたちはまだ生きてるけど

あいつはもういない

あいつにはサイゴンに愛する女がいた

彼女の腕に抱かれてる

あいつの写真は今でも持つてる

サイモン&ガーファンクルの「7時のニュース/きよしこの夜」は衝撃的な作品だった。流れるのは、サイモン&ガーファンクルが歌う聖歌「きよしこの夜」である。その静かで清々しい歌声をバックに、ベトナムで何人のアメリカ兵が死んだか、その戦闘はどうであったかがニュースとして語られる。

歌だけでなく多くの映画が作られた。

「プラトーン」はオリバー・ストーンがメガホンをとり、アカデミー賞を受賞した。

「地獄の黙示録」はワグナーのワレキユレが印象的だった。

シルベスタ・スタローン主演・脚本の「ランボー」第一作は、ベトナム帰還兵の苦悩をアクション映画として描いた。燃えがる町、爆発するコンビニエンス・ストアの映像が、戦争の風景と重なった。

オリバー・ストーンは「7月4日に生まれて」という作品も残している。トム・クルーズが好演した。

スタンリー・キューブリックはマシュー・モディーンを主演に起用して「フル・メタルジャケット」を作った。ジヤングルがまったく登場しない異色の反戦映画だった。

ロバート・アルトマンの「マッシュ」はベトナムの野戦病院に送り込まれた医師たちの日常をコメディ・タッチで描いた。冗談を交わしながら負傷した兵士の血が吹き出る首を両手で押さえるシーンは、不謹慎というより、

——笑っちゃうよりほかにないだろう？

という、この戦争の本質を描いていた。

空軍機が撒き散らした枯葉剤「エージェント・オレンジ」の後遺症は、従軍兵士とその家族に後遺症をもたらした。一九六一年から七一年までの十年以上にわたって、アメリカ軍が散布した「エージェント・オレンジ」は一千二百万ガロンに及び、他の枯葉剤、殺虫剤は一千九百万ガロンに達していた。

その中には大量のダイオキシンが含まれていて、地中に

深く染み込み、植物を汚染し、最終的に食べ物となって人間を汚染した。アメリカではベトナム従軍兵士の三世代あとの子孫に、先天性失損症が少なからず出ており、ベトナムでは六十五万人がなお慢性的な後遺症に苦しんでいる。

補注

ズオン・バン・ミン Duong Van Minh / 1916 ~ 2001。
一九六三年十一月、南ベトナム陸軍准将だったとき独裁的暴政者とされたゴ・ジン・ジエム大統領に対し軍事クーデターを起こし臨時政府を樹立した。翌六四年一月、敵対勢力のクーデターによって失脚し、政局から姿を消した。しかし彼は「ビッグ・ミン」の異名で軍と民衆から支持されており、七一年の大統領選挙に立候補した。選挙に敗れはしたもののミンが強い影響力を持っていることをゲン・バン・チュウ政権は改めて認識し、閣僚として起用することになった。

七五年北ベトナム軍の南進が始まり南ベトナム軍が総崩れになったとき、ゲン・バン・チュウ、ゲン・カオ・キラ政府首脳がいち早く海外に脱出したが、ミンはサイゴンに留まって臨時大統領に就任した。大統領就任から四十四時間後、ラジオ放送で北ベトナム政府に対して無条件降伏を通告、大統領官邸に突入してきたベトコン兵士に身柄を拘束された。ミンはその後拘禁生活を送ったが、八三年フランスへの出国が認められ、のちアメリカに移ってカリフォルニア州で余生を送った。

フエ Hue: ベトナム最後の王朝ゲン王朝(一八〇二~一九四五)の都があった。現在は観光地となっている。王宮はベトナム戦争で被害を受けた。

葉劍英 Ye Jianying / 1897 ~ 1986。広東省梅県に生まれ雲南講武堂を出て広東革命政府軍に参加した。一九二四年黄埔軍官学校教官となり二六年北伐軍に参加、二七年中国共産党に入っ

て広東暴動を指導したが失敗して香港に逃れ、次いでドイツ、モスクワに留学した。帰国した三〇年党中央軍事委参謀長、三一年江西ソビエト区紅軍第三師団参謀長、労農紅軍学校長などを経て三四年の長征に参加、三六年西安事件で周恩来とともに蒋介石との交渉に当たって第二次国共合作を成立させた。四九年新中国政府下で北京市長から広東省人民政府主席となり、五一年華南军区司令、五五年に元帥となった。

五六年軍事科学院長となったのを機に中央政府に参画するようになり、六七年中央軍事委副主席、政協主席などを務めたが文化大革命で林彪派の攻勢で権力から遠ざけられた。七一年中央政界に復帰し、七三年党副主席、七五年国防部長として七六年十月の四人組逮捕を主導した。華国鋒、胡耀邦政権で党副主席、政治局常務委員、七八年から八三年まで全人代常務委員長を務めた。周恩来死去直前、病床にあった周、鄧小平と三人で江青ら四人組打倒の策を練ったとされる。引退後も党と軍の大長老として大きな影響力を持った。

保大 Bao Dai / バオダイ / 1913 ~ 1997。ベトナム王国の皇帝だったが最初フランス軍、のち日本軍の傀儡政権となり、第二次大戦終結の翌年ホー・チ・ミンに政権を譲った。一九四九年フランス政府の後押しで「南ベトナムコーシチナ共和国」を樹立、その元首に就任したが五四年ディアン・ビエン・フーの戦いでフランス軍が北ベトナム軍に大敗したのをきっかけにフランスに移住した。

B-52 爆撃機 「B-52」はボーイング社の開発コードで、正式名称は「ストラトフォートレス」。全幅五十六・四メートル、全高十二・四メートル、全長四十八・一メートル、総重量三百二

十三トン、最高速度は毎時一千三十七キロ、航続距離は二万百キロという超々大型爆撃機。そもそもは戦略核爆撃機として設計されたが七一年にミサイルと通常爆弾による全天候型爆撃機に改良された。北ベトナム爆撃に使われたほか、輸送機に改造した同型機が戦車や重火砲、軍用車などを大量に空輸した。

古森義久 こもり・よしひさ／1941～…東京都に生まれ慶應義塾大学経済学部を出て毎日新聞社に入った。サイゴン、ワシントン特派員、のち産経新聞に移りロンドン支局長、ワシントン支局長を歴任した。ベトナム戦争当時、サイゴン陥落後も現地に踏みとどまって報道を続け、七五年度ポーン上田賞を受賞。八一年には在日米軍の「核持ち込み」を否定しないライシヤワー発言をスクープした。主な著書に『ベトナム報道一三〇〇日』(一九七、筑摩書房)、『世界は変わる』(一九九一、文藝春秋) などがある。徳岡孝夫 とくおか・たかお／1930～…大阪市に生まれ京都大学英文科を出てフルブライト留学生としてアメリカのシラキユース大学に留学した。帰国後毎日新聞社に入り社会部記者、編集次長、編集委員などを歴任した。記者時代にベトナム戦争、中東戦争、三島事件などを取材した。三島事件の際には、三島が直前に決行を伝えた二人のジャーナリストの一人。また日米開戦にいたる真珠湾攻撃前夜の歴史発掘を手がけ、当時の外務省怠慢の責任を追及した。主な著書に『真珠湾』を知っていた女』(一九九三、文藝春秋) がある。

沖縄や五島列島への漂着 民俗学・歴史学の観点でベトナムのポートピープルは一つの実証的な情報を提供することになった。すなわちコーチナ半島から海流に乗れば七日以内で沖縄や五島列島に漂着することができるという事実である。縄文・弥生文化、

原日本人の形成を考察するうえで貴重な事実だった。

カイン・リー Khanh Ly／1945～…ハノイ市に生まれ、一九六〇年代にアメリカに移住してダンスホールで歌手となった。チン・コン・ソンと出会い、ベトナムを素材にした歌を唄った。七〇年代に南ベトナムに戻り、七五年四月二十九日(サイゴン解放前日) ポートピープルとして脱出した。アメリカ合衆国カリフォルニア州を拠点に歌手活動を続け、越僑歌手の重鎮として知られる。

近藤紘一 こんどう・こういち／1940～1986。東京に生まれ六三年早稲田大学文学部を出て産経新聞社に入り、七一年サイゴン特派員となった。現地の下宿先の女性と結婚し、七五年四月のサイゴン陥落の模様を日記体で書き、同年十月『サイゴンのいちばん長い日』として出版した。南ベトナム政府が崩壊していく状況を、社会や文化にまつわるエピソードとともに描いた。続編ともいえる『サイゴンから来た妻と娘』で大宅壮一ノンフィクション賞を受けた。

日本IT書紀 186 ポートピープル

著 者：佃 均

発行者：（特非）オープンソースソフトウェア協会
<http://www.ossaj.org/>
info@ossaj.org

発行日：2023年4月10日

本作品は2004年-2005年ナレイ出版局より刊行された「日本 IT書紀」全5分冊を底本とし、原著者が一部改定を加えたものを複数の電子書籍に再構成して CC-BY-NC-ND ライセンスにより公開します。



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。